

会 議 録

1 会議名

令和6年度第8回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年1月21日（火）午後6時30分から午後8時10分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、今川委員、
小玉委員、関澤委員、関谷委員、田中（実）委員、田中（由）委員、
土肥委員、古谷委員、保坂委員、増田委員
(欠席者4名)

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：今川委員、小玉委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.1「今後の協議の進め方について」に基づき説明

【磯田会長】

今日の会議は、この四つの項目についてどのように審議していくか、またはそれぞれの団体が抱えている課題というものを掘り下げていきながら、どのような取組みにしていっていいかということ、ざっくばらんに話したいと思っている。

皆さんが視察の中で思われたことや、課題なのではないかと感じたことを、検討の方向性としてお話しいただきながら話を進めていければと思っている。

まず福島城に関することから話を進めていきたいと思う。

資料No.1では、課題として、「福島城資料館の場所及び状況が、資料を観覧しやすい状態になっていない」と書かれている。活動団体の立ち位置や存続といった話になると、なかなか協議会が言いづらい部分もあるだろうと思うが、さりとて今の状況のままで、資料が塩漬けのような状態になっているところについて、どうしていったらいいか少し議論をしながら、どのように我々が動いたらいいのか議論したいと思う。

【増田委員】

視察のときに福島城を愛する会の方からいろいろとご説明いただいたが、継続していく上での課題という観点からの説明はほとんどなかったと思う。

資料館には電気が来ていない、トイレがないなど、見学しやすい状況になっていないという課題がある。その課題に関して、福島城を愛する会の皆さんから、会員の皆さんが抱えている現状と課題、それに対して歴史的・文化的なものを所管する文化行政課がどのように考えているか、両者に来ていただいてざっくばらんに話合いができたらいいいのではないかなと思う。

【古澤副会長】

視察研修の感想で、福島城は素晴らしい、残してほしいとの声があったし、私もそのように思っているが、それをどうしたらいいのかということになると、会の方にどうしろ、こうしろとは言えないが、実際には三十人ぐらいの会員がいる中で、高齢化により三人くらいしか活動できていない。

私の判断になるが、福島城資料館にあるものを屋台会館へ移す。屋台会館には、観光コンベンション協会が入っているので、そこであれば人が立ち寄るし、直江津の歴史や文化を周知することもできる。そういった行政への働きかけ等を私たちから上げて、よ

り発展的なものを作っていきたいと思っている。

【田中（美） 副会長】

福島城資料館の視察の際に、今回説明してくださった方に何か問題点等はあるかとお聞きしたが、今のような問題点は全然言われなかったし、会の方がそこまで問題に思っていないければ余計なお世話になってしまう。私たちが考えている問題点に納得してもらわなければ進めるのは難しい。

【磯田会長】

課題としては、福島城を愛する会が管理している資料が日の目を見ていない状況がある。オファーがあれば解説はしているが、常にかかれていないわけでもない。地域の学習として小学生等に説明する機会は教育委員会経由であるが、なかなかオープンな状況になっていない。歴史的なものに興味がある人たちにとって、それがそこにあることすらわからないというような状況の中で、もう少し資料に日の目を見せていくにはどうしたらいいかというあたりが大きな課題だと思っている。

【古谷委員】

たくさんの資料が日の目を浴びていない。福島城資料館はどう見てもただの廃校で、車をどこに停めていいかわからないし、電気も水道も使えない。受入体制ができていなければ、来られた方も困るのではないかな。

もっと資料を見ていただきたいという思いがあるのであれば、春日山の埋蔵文化財センターや歴史博物館の職員の方に、価値のある資料かどうか見てもらい、本当に価値あるものを、皆さんが観光で来られるようなところに置いてもらうのがよいのではないかな。

あのままやっても、恐らく後継者はいないと思う。すごく価値があるから残さないといけないと言っている人に限って、あまり利用されないのではないかなと思うので、普段からそういう仕事をされている方に管理等を任せたいほうが、後世まで受け継がれていくのではないかなと感じた。

【関谷委員】

以前、福島城のジオラマの展示を佐渡汽船ターミナルの展望台の方に出たが、なくなってしまったというようなことをお聞きしたが、そのあたりの経緯がわかったら教えてほしい。

【磯田会長】

二年ぐらい前に、福島城を愛する会が管理する資料を、もっと価値が発揮できる展示

方法にしていってはどうかという話があった。

当時の博物館の館長と、県議、市議の人たちと意見交換会をした。私の提案としては、資料は、市の文化行政課か博物館に寄託をして保管してもらう。あの資料の中では、基本的には第一級の歴史的価値はないという判断が下っているが、資料が展示に値しないというわけではない。そういう中で、どこかで目の目の当たる見せ方がないかと、埋蔵文化財センターに春日山城、高田城と併せて三城物語というストーリーで置くという提案と、佐渡汽船ターミナルの展望台のところに置いて発信するという二つの提案を館長にしたところ、福島城があった場所の近くに展示されているということが重要だということであった。それを受けて、福島城全体を俯瞰できる場所として、佐渡汽船の展望台のところに、例えばジオラマを置いて、若干選別した資料を置くというのが一番いさせるのではないかとすることを提案した。

館長もその方向性は賛成していただいたところだが、福島城を愛する会が今持っているものをどう扱うかや、団体の存続のようなところにセンシティブな問題があり、なかなか進んでいないというのが現状である。

福島城を愛する会の問題を解決しようとするとてもすごく大変なことになってしまうので、今後の展示の仕方や活用の仕方については、地域協議会も含めてみんなで考えましょうというような提案を、こちらから愛する会の人たちにして、ある程度納得をいただく状況を作らないと、進められないのではないかと。

そのときは、少人数で話しやすい雰囲気を作って、そういった提案をしていくということが次の段階ではないかと思う。

【保坂委員】

とにかく愛する会の方々が納得しない限りは、ここでいろいろと協議をしても何ともならないので、まず第一歩はそこしかないのではないかと。

【今川委員】

資料館としての場所は、福島城跡地なのでそれほど悪くはないが、閲覧場所としてはもう一工夫して、場所を変えるなり、もっと広くするなり、見学に来られた方が十分満足して帰られるような展示方法にする必要があると思う。

【磯田会長】

まとめると、どのように資料に目の目を当てていくかという話を、まず協議会の正副会長や少人数で、会の人たちとざっくばらんに話をしに行き、そういう方向しかないと

会の人たちに納得していただいて、方向性が共有できたら次のステージとして、どのような展示場所があるか等も含めた議論していくという段階を経ていきたいと思うが、皆様のいかがか。

(委員同意)

それを受けて全体会議に諮っていくというような形で進めていければと思う。

次に、五智公園に関することということで、課題としては、「五智公園への市及び市民の注目度が低い」と書かれているが、五智公園を育てる会の自然環境保護の活動だけではなく、五智歴史ゾーン、あるいは、五智公園としてのありようといったことについても議論していくべきではないかと思っている。

【関澤委員】

他の四つの項目もそうだが、相手あつての地域協議会だと思う。相手の了解を取ってから話をしないと空回りに終わってしまう。そちらを先に進めたほうがいいのではないか。

五智公園を育てる会については、まず、三役は高齢化していて後任が見つからない。専門の知識がある方でないと後を継げないというようなこともあるので、植物等のことに詳しい方がどこかにいたら、紹介していただければと思う。

次に、育てる会の運営は、五智地区町内会長連絡協議会から寄付金を1町内3,000円ずつ14町内と、市の補助金と、会員の皆様の一口500円でやっているわけだが、それでも足りないということである。できれば、直江津地区町内会長協議会のほうからでもご協力いただければ、非常にありがたいと感じている。

【磯田会長】

福島城も、三八朝市も、五智公園もそうだが、それぞれの関係する団体の存続や、活動の活発化、活性化をどのようにしていくかについては、また別の次元の課題として協議会で議論したり、団体と意見交換をしなければいけないのではないかと思っている。

【田中（由）委員】

私は、どんな感じのものかわからないまま五智公園を育てる会に入らせてもらった。

笹刈りから始まり、こんなにも地域の皆さんが協力してくれて、五智公園を守ろうとしてくれていることを知り、感動した。

新潟県自体が日本の真ん中にあるので、植物等もいろいろなものがあり、なかなか貴重な所ようだ。蝶や鳥に詳しい方が結構いらっしゃり、蝶が卵を産み付ける珍しい植

物も注目はされているが、目印をつけたりすると、どうしても荒らされたり、なくなったりと、いろいろな問題があるようだ。市の担当の方もいらっしゃるようだが、貴重な植物等を残すといったことまでは、依頼できないのだと思う。

会が目的としていることを広めることが難しかったり、私自身も深いところは理解できていないところも多い。もっともっと皆さんに五智公園や会の活動を知ってもらいたいが、どうやったらいいのかという感じである。

【磯田会長】

自然植生や里山文化も含めて、五智公園のカンフル剤として何か注入するために、例えば、もう少し人を呼ぶ工夫が必要だとか、交通公園にももう少し注力しながら、市民の憩いのスペースとしてもう一度再生していくような形を作っていくとか、そんなことを少し皆さんから意見をいただきたい

【青山委員】

私は交通公園ができたときからずっと見てきた。できた頃は非常に盛り上がっていたが、あれをなくした、これをなくしたと、なくした話ばかりで、このままでいけば全部なくしたということになってしまう。そういうことを承知であれば、自然のものだけ残せばいいが、交通公園としての魅力があるのであれば、もっと元気が出るようなものをもってきてもらい、集客力をつけないと、このまま衰退する。

【小玉委員】

私は交通公園も五智公園も幼いときに結構遊んでいた。そのときには青少年文化センターもまだあって、夏休み等にはプラネタリウムがあった。毎回同じプラネタリウムしかやっていなかったが、それでも自分の中ではすごくいい思い出になっている。自分が遊んでいたところで子どもを遊ばせる親は結構多く、もし私も子どもが生まれたら自分が遊んでいたところで遊ばせたいと思っていて、やはりそこは、ただ遊び場というだけではなくて、思い出としてそこは残っていてほしいということを個人的に思っている。

私のような考えの人は多分少なくはなくて、そうすると、子どもが集まるように施設や遊具、自然を考えていけば、おのずとその注目度も上がるだろうし、人も集まるだろうと思っている。

自然に関しても、小学校の頃は町探検のような感じで、花の説明を聞いたり、ターザンロープで遊んだりしていた。子どもは楽しいものは何回でもやりたいので、ゴーカートもそうだが、何回もそこに来る、リピーターになってくれるのではないかと考えてい

る。

個人的には、お散歩コースとしてもいいと思っていて、結構坂は急だが、犬を連れて
いる方がいらっしゃったりするので、私も家に犬がいるが、注目を集めるという点では、
子どもやお散歩コースというところに特化していく、そして、お金を落としてもらわな
いと存続が難しいと思うので、そこも考えていかなければいけないのではないかと思っ
ている。

【関澤委員】

五智公園を育てる会の人たちは山の方にしか興味がなく、交通公園は別物と考えてい
る。

五智公園に関しては、育てる会が主になってやっていて、年に1回、都市整備課の方々
と打合せをやっている。その中で、トイレも改修していただいたし、展望台も非常に良
くなった。

交通公園も橋を新しくしたり、少し改良している。五智公園と併せて考えたほうがい
いのか、単独で考えたほうがいいのかよくわからないが、育てる会の人たちは別に考えて
いる。

【磯田会長】

五智公園を愛する会の皆さんは、里山のことしか眼中にない。その範囲の中でどうし
ていくかと悩んでいるようだが、もう少し視野を広げて考えたほうがいいのではないかと
私も考えている。

【土肥委員】

私は五智公園の保全活動をしている団体があるということを知らなかった。

その人たちだけが知識を持っても、それは自己満足だと思う。存続したい、でも
知っている人が少ない、後継者がいない。

だから、山のことも大事だが、一步引いて見ることで見えてくるものがたくさんある
と思う。公園を利用するのは、まず子どもたち、年配の方、でも上越市民みんなに来て
ほしいとなると、土日はターゲットを絞って、子どもだけ。平日は、お散歩している人
たちなど、そこら辺を明確にすることが必要なのではないかと。

【磯田会長】

今までの話を総括していくと、この地域協議会の検討の方向性のようなものが少し見
えてきたのではないかと。例えば、地域協議会は実施主体にはなれないが、地域の

人たちと新たな団体や、五智公園、五智エリアを全体で考えていくような連携団体のようなものを、地域協議会主導で作っていくようなことはできると思う。既存の団体も含めた、新たなチャレンジのようなことを議論の一つとして、地域協議会の自主的審議をこれから少し進めていって、例えば、令和8年度の地域独自の予算事業に、直江津区として市のほうにも協議しながら進めていくという選択肢もあるのではないかな。

五智エリアのパークマネジメントのようなところも含めて、無印さんなど、民間活力をどのように入れていけるか、今、屋台会館でキッチンカーを呼んでイベントをやっているが、五智公園や交通公園に出てもらってもよいと思うし、そういう方向でこれから議論をしていければと思っている。

今日のところのまとめとしては、このような形でよいか。

(委員同意)

三つ目の項目、三八朝市に関するに移る。

課題としては、「出店者数、利用者数の減少による朝市の継続困難」とあるが、どうか。

【古澤副会長】

三八朝市は三つの組織が関係している。

以前、地域協議会で意見交換するということでお声がけしたが、三八朝市まちづくり協議会しかお見えにならなかった。全体的に高齢化が進んでおり、なかなか積極的でないという方のほうが多いように見受けられる。

実際に行ってみても、もう以前のような賑わいがない。それぞれのテントの中で、時季のもの等を売っているが、どら焼き屋さんが一番流行っていて、そこだけが混んでいる状況である。

イベントをやると人が来るが、やらなければ来ないし出店しないということになり、私の知っている方も七十五、六歳で、息子さんの手を借りながら本当にやっと出している。5年先の三八朝市はどうなるのかという状況である。

その中で、三八の市はどうしたら良いのかということで、前期の地域協議会でもいろいろな意見が出た。テントを交付したらどうか等、いろいろな意見も出たが、なかなか一歩踏み込めないという状況である。

地域協議会としてどのように関わっていったらいいのかということについて、皆さん方の新たな発想の意見を聞いて、事を進めていければいいのではないかとと思っている。

【保坂委員】

お客を呼ぶにはどうしたらいいか、それには、駅前に泊まっていた方に新鮮な野菜や魚を買ってもらい、どこかで調理するとか、そういう意見はいろいろ出たと思うが、三八朝市に出店する人たちが高齢化で少なくなっているから、まずその人たちを確保しないと、いくら周りでこういうことやったらどうかと言っても、難しいのではないかと考えている。

だから、出店者の方たちをどう確保するかと、お客を呼ぶということが同列になっていくと思うが、出店者がいないからお客がいない、お客が来ないから出店者がと、そういうふうな形になってきて、今、負のスパイラルになったような気がするから、そこから踏み込んでどうかと考える。

【磯田会長】

私が代表となっている団体で、令和5年度に三八朝市の活性化について5回のワークショップを開催して、市民の皆さんから検討してもらった。

その中では、既存の朝市をどう継続させられるかということプラス、イベント的な、マルシェ的な、新しい人たちをどうつなぎ、そのステージに来ていただいて新たな朝市を作っていけるかというような話になり、そういう方向を目指そうというふうに話がまとまった。

もう一つは、あの場所というのが非常に荒川町の皆さんに不便を強いているというような話の中で、もう一つ別の場所を考えたらどうかという議論も並行して行ったが、そこはなかなかおいそれとはいかない話であった。

そのワークショップでの議論を踏まえて、令和7年度の地域独自の予算事業で私の団体から三八朝市の活性化に向けた事業を提案している。

具体的には、出店者の似顔絵をお店のテントのところ等に貼っていただいて、その出店者の情報を少し表記させてもらって、会話の取っかかりにしてもらおうというものと、春と秋にイベント的なものをしていこうというような提案を出している。

それから、三八朝市周辺まちづくり活性化協議会という団体があり、三八協と呼ばれている。

その三八協でもう十何年も5月3日に三八朝市祭りというのをやっているが、非常に市組合の人たちからは疎まれている。

朝市を盛り上げようとしているのに、出店者の人たちは、それをやっても売り上げが上がらないという感覚である。出店者の人たちも、このまま静かに自分の代で終わりだ

からというような人たちが圧倒的に多い。

先ほどの活性化に向けた事業提案も、若い人たちは新たなマルシェのような形で出店する可能性はあると思うが、既存の野菜等を売る方々を増やすということは、なかなか難しい。あるるん畑に持って行けば楽だし、高く売れるということもある。

ワークショップの議論の中では、その方々のところに行って、商品を預かって朝市で売るといったアイデアも出たりもしたが、どこから原資を持ってくるかということや、誰がやっていくのか等、非常にハードルが高いのが現状である。

そういう中で、来年度、地域独自の予算事業が通れば、我々が何かをやる予定にはしているが、根本的な部分の解決というのは、なかなか難しいというのが現実である。

【田中（由）委員】

場所のことの話が出たが、あの場所でなければ駄目なのか。例えば、屋台会館の前というような案はあるのか。

【磯田会長】

私の団体が行ったワークショップの中では、屋台会館という話も出ていたし、船見公園でやろうかという話や、あすか通りの自由通路でやればというような案も出て、そういう中で、その地域、特に直江の津と呼ばれているエリアの人たちの台所であるということ。それから、かなりご高齢の方々が、エルマールやこちらに来られない人たちの野菜等の販売の拠点であるということ。何よりも、三八朝市という言葉や、百年以上続いている朝市のアイデンティティのようなことを考えていくと難しい。

【田中（由）委員】

私の母も、昔お店を出させてもらっていたので、事情は何となくわかる。けれど、屋台会館のあの広場でやれば、雨が降ったときも、建物の中に入れさせてもらったり、軒先を借りたり、テントを張ることができる。マルシェ的なものと一緒にやればお客さんは増えるだろうし、特に若い人とか子連れの方等が来られると思うし、難しいかもしれないが、バスのようなものが出ると、ご老人等にはすごくいいと思っている。

私は五智公園や神社仏閣、無印さんもそうだが、そういうところを全部行けるような、バスのようなものがあればいいと思っている。また、昔あった青少年文化センターのように、子どもからお年寄りまで、皆さんが集えるような建物があそこにまたできてくれればと思っていて、地元のお店のお菓子やおいしいもの、お花、そういったものもその建物の中に持ってきていただいて、皆さんが買えるようになったらいいと思っている。

【磯田会長】

今の周遊バスや、青少年文化センターの話というのは、非常に未来を感じる話ではあるが、ハード整備という話になってくると、また大きな壁もあろうかと思う。議論の中で、それは本当に実現可能性があるのか、どう検討していったらいいのか、あるいは、そこに至るために、前段階として、どういうことに取り組んでいけばいいか、それこそ五智のマルシェのようなことが開かれてもいいと思う。そういう取組のようなことを考えていきながら、活動も含めて膨らませていくということが必要ではないかと思う。

三八朝市に戻ると、屋台会館の話は、露天ではなくて屋根が欲しい、特に冬場の三八朝市は本当に誰もいない、出店者もいない、少なくなってしまうというようなところを議論しなければいけないと思うが、なかなか今の体制の中では、屋台会館を会場にするということは、市はあまり考えていないというのが現実だと思う。

その辺も含めて、自主的審議の中で議論していく、あるいは、私の団体の取組を逐次報告しながら、どうしていったらいいかというような議論を、この場でさせていただければと思っている。そんな形で進めていくということでよいか。

(委員同意)

【古谷委員】

三八朝市については、なくなって困る人はどのくらいいるのか。皆さん、多分、朝市で買い物はされていないと思う。利用したことのない方が何かいろいろ言うよりは、本当に利用されている方の意見を聞いたほうがいいのではないかな。

そもそも朝市は百年以上続いていて、昔の日付ベース、3と8が付く日ということで開催されていて、今の生活には合っていない。土日等に開催しているものでもない。

自分たち無印良品は、2020年5月から、3と8の日に毎日出店している。雪の日も雨の日も、風がすごく強い日も、誰もいなくても自分たちは行って、近所の方がお菓子を買いに来てくれる、「あのおばあちゃん元気かな。」ということで、生存確認という意味も込めてやっている。

おばあちゃんはコミュニティをすぐ作れるけれど、仕事を辞めたおじいちゃんは、地元で仕事されている方であればコミュニティはあると思うが、東京に出て、定年を迎えたから地元に戻ってきたという方等は、あまり居場所がないとか、引きこもりがちという話もいろいろ聞いたりしている。だから、そのような方を活用して、引き継いでもらえばいいのではないかな。

出店されている方にいろいろお話を聞いても、雨が降ったらお客さんが来ない、土日に重なるとお客さんは来るけれど、それ以外は来ない。

観光客や、たまに行く人はそれほど困らないが、そこしか行けないような、カートを押して来るおばあちゃん等は、それがなくなるともう生活できなくなってしまう。

車に乗せてもらって買い物に行くには申し訳ないけれど、自分で選んで買うということが朝市に行くことができる。何か買い物をするとか、お店の人と話すということも、すごく生きる力になっているとお客さんが話していて、そういうお話を聞いたりすると、自分たちは、すべての商品を網羅しているわけではなくて、ただお菓子を販売しているだけなのだが、話に来られるついでに買っていただくような感じである。

なので、朝市を継続しないといけないとか、続けるためにはどうしていったらいいかみたいなことを言う前に、土日だけでもとか、空いている平日とかでも、3と8の日を意識していただいて、スーパーに行く回数を1回朝市にしてみるとか、まずはできることから話し合っている皆さんで何かできれば。

お客さんが来ないと多分辞めてしまったりとかするので、本当に朝市の継続が困難になる。出店者がいなくなれば、買いに来る人もいなくなるので、まず出店者を守っていく、みんなで守っていく、地域で守っていく。

【磯田会長】

毎回出店してくれているのを、ありがたく見ている。

ワークショップの議論の中でも、出店者側をどう支えるかということとともに、先ほどおじいちゃんのコミュニティのような話があったが、コミュニティや生きがいなど、朝市が別の力を出せる、朝市としてもともと持っていたものを復活させるような注力ができるか、あるいは、そういう意味の中で、高齢者施設の人たちの力を活用するようなことが、朝市の取組としてできないかというような話も出ていて、そういうことにもつながっていく話ではないかと思った。

来年度予算化されれば、直江津プライド2021で実施見込みの三八朝市の活性化に向けた事業の報告を適宜地域協議会にもらいつつ、もう少し皆さんで今日出たご意見の部分を掘り下げていくというようなことでまとめたいと思う。

最後に、防災に関することとして、「活動が形骸化している自主防災組織がある」と直球で課題が書かれているが、ご意見いただきたい。

【関谷委員】

活動の形骸化というところで、学習会の提案をしたい。

去年の地震後に、新聞やテレビ等で皆さんもご存じだと思うが、直江津地域でいろいろな検証がなされて、どうしていくかという話合いもたくさん行われている。

その中で、上越市防災士会直江津支部で去年の12月に、沿岸地域の3町内の町内会長さん等から来ていただいて、災害時の様子や、その後に避難計画の見直しを行って、見直し後の避難計画をもとに避難訓練を行ったというお話をしていただいた。それがとてもよかった。

被害に遭ったその後の避難計画の取組と、それをどのようにやっていったのかを知るのには、皆さんにとってもとてもいい勉強になると思うし、形骸化している町内会にもいい刺激になるのではないのかと思います提案する。

【増田委員】

論点が二つあると思う。自主防災組織をどうやって実行力のあるものにするか、活性化をするかというのが一つ。もう一つは、こと防災に関しては、行政を抜きにして考えることはできないので、行政にいかに対処をしてもらうかということの二つがあると思う。

自主防災組織の活性化については、今、関谷委員がおっしゃったとおりの方法がいいのではないかと思います。

もう一つ、地域協議会としてどう考えるかというのは、自主防災組織の活性化もあるが、行政にどういうふうに動いてもらいたいかということを行政に伝えるのは、地域協議会と町内会長連絡協議会の二つの団体だと思う。この前の協議会で、防災関係課の課長から来ていただいて話を聞いたときに、行政の取組としては、かなり不足している部分がある。皆さん、能登半島の地震のその後を見ていただいてわかると思うが、かなり用意周到に準備しないと、皆さんの被害が防げない、被災された人たちを救うことができないということがあるので、一つとしては地域協議会として、行政と話をしてどういうふうに行政に対処してもらうかということが重要ではないかと思う。

この前、話を聞いたときに、抜けているところがたくさんあった。例えば、避難所へ行ったけれど扉が開かなかった、避難所に避難した人たちの分の食料がなかった、暖房がなかった、毛布がなかったとか、これは行政から準備していただくことだと思うので、そこら辺はしっかりと地域協議会として行政と話をしていく必要があるのではないかと思う。

この前の協議会るとき、避難所に来る人たちはその地域に住んでいる人の10%で想定しているという話だったが、実際に大きな地震が来れば10%では済まない。

また、家が壊れてしまって住むところがない人たちは、30日、40日と過ごす場所を確保してあげないといけない。そのことについて市は考えてないという状況があるので、そこら辺を踏まえて、地域協議会としてはしっかりと行政と向き合っていきたいと思うし、自主防災組織の皆さんに関しては、この協議会に町内会長協議会の会長さんがいらっしゃるの、その方を中心に私たちもフォローしながら動いていったらいいのではないかと思う。

【磯田会長】

今、増田委員から、論点として二つ示していただいた。

自主的審議の中で、自主防災組織の活動が活発な町内と、我が町内のように、防災訓練で駐車場に集まって、名簿に名前を書いて終わりというところもあるので、その温度差はそろえていかなければならない。

そういう意味では、以前、直江津区の自主的審議として進めて、提案をした地域独自の予算事業の中でのそれぞれの活動の底上げをしていけるかという中で、協議会が担う役割や、防災士の皆さんとの連携のようなことは重要になってくるのではないかと思っている。

一方、行政の考える防災のありようのようなところは、きちんと意見交換をしていく必要があると思う。先日、市から震災後の対策の振り返りの結果が公表されたが、お題目的なことしか書いてない。具体的にどのようなことを町内会とやっていくのかや、直江津区ではどのようなプロセスで実現していくのかというところについては、まだその報告書の中には書かれていないので、そういうところも含めて、一度、防災関係課に来ていただいて、じっくり話を聞くというのが、最初のスタートではないかと思っている。

【今川委員】

会長と同じ町内だが、当町内では、令和5年、令和6年、2回続けて防災研修会をやっている。これからも続くと思うが、形骸化しているとは全然思っていない。

福祉課から来ていただいて、支え合いマップというものを作って、実際に災害が起きたら誰がどの人を助けるか、非常に納得できる方向でできている。

それから、防災士の方をお呼びして、防災に関する研修会を1時間から2時間くらいじっくりとやった。私は2年続けて研修会に出ているが、自主防災組織などというもの

ではなくて、やはりまず誰を守るか、当町内はもう高齢者の方ばかりになって若い人はほとんどいないが、少しでも若い人、動ける人がお年寄りを助けるということである。

当町内には、防災士の方もいる。防災士の話をよく聞いて、災害があったときは、もう逃げるしかない。

直江津西本町1丁目あたりであれば、津波の心配はあまりないと思うが、そういう研修会を、毎年毎年やるべきだとは思ふ。非常に勉強になる。

【磯田会長】

勉強不足で申し訳ない。しかし、そういう取組をされていることが末端の私のところには伝わってきていないというのは現実としてあるということである。

【古澤副会長】

直江津地区の現状を申し上げますと、3月26日に、直江津地区町内会長協議会で32項目の要求等を出したところである。

その後、行政のほうも動いて、ワークショップ、避難所の集まり方や開設の仕方、そして10月12日に総合防災訓練等をやってきた。

それはなぜかという、避難経路ができているところと、できていない町内がある。できているところは、そのままできる、そして、避難訓練をやっているところはきちんとできるそうだが、やはりできていないところが多いということで、行政のほうでもそれを確認した。いろいろ話を聞いてみると、まだまだ完全になっていないようだ。

その辺を、地域協議会で掘り下げて聞いてみて、どうやったら防災組織がしっかり機能する、あるいは、避難訓練ができるのかということをやったらいいかと思っている。

【磯田会長】

この項目については、委員皆さんがすべての情報を認識しているわけではないので、現状を正しく認識するということからスタートしないと、何をしていたらいいかわからないということがあるので、提案としては、市の防災担当課から、今までの経緯と、これから市が目指している方向性、あるいは、地域の人に何を担ってもらいたいのかというところを協議会の中でお話いただいたらと思うのが1点。

2点目は、それを受けて、学習会や各町内の話の中で、我々がどういう動きをしていたらいいのかということも含めて、一度我々が勉強するところを、防災士会の方や古澤副会長始め、町内の方々、今、先行して避難計画ができている、あるいは、自主防災組織がきちんと運営されている町内の方からお話をお聞きするという会議をし

てはいかがかと思っているが、いかがか。

(委員同意)

では、防災担当課を呼べるかどうかは、事務局から調整をしていただくということでお願いをしたい。

四つの項目について、どういうふうに進めていくかというところまではいけなかったが、例えば、一つ一つの課題について分科会のような形で議論しながら、その後に全体会で意見交換をするなど、いろいろなやり方があると思う。これは次回の会議に持ち越したいと思うが、どのように議論していったらいいかは、皆さんお考えいただきたい。

その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

- ・次回協議会の日程について説明

【磯田会長】

- ・次回協議会：2月12日（水）午後6時30分から
意見、質問等を求めるがなし。
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。